

いし い よしさと
石井 義郷 (1812~1859)

歌人。松山藩士。松山城下(現、松山市)を中心に活動した人。12、3歳から歌を好み、三浦幸郷、伊東祐根に学んだ後、海野遊翁に入門し歌のさまを教わり、長歌に優れた。『石井義郷歌集』、『石井家集』、『萩の露』、『芳宜の屋集』、『秋萩』などに多くの歌を残している。歌風は朴实温厚な人柄にふさわしく、端正な詠みぶりで、さまざまな題材を自在に詠みこなし、完成されたスタイルを持っている。星野久樹や藤田久徴ら門人も多く、松山幕末期の歌壇を指導した。

略歴

文化9(1812)年5月17日 出生
天保7(1836)年 海野遊翁に入門
安政6(1859)年7月16日 48歳で永眠

〈関連図書〉

・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
〈ゆかりのある場所〉…(P300, 148)